

白化した沖縄のサンゴ礁＝2016年9月  
(THE OCEAN AGENCY提供・共同)



# 世界のサンゴ礁消失危機

## 温暖化で海水温上昇 白化常態化―

【ニューヨーク共同】地球温暖化に伴う海水温の上昇により、今世紀中に世界の海で全てのサンゴ礁が消失する恐れがあるとの報告書を国連環境計画（UNEP）が8日までにまとめた。国際社会が化石燃料への依存を続けると、2034年にはサンゴ礁の死滅につながる白化現象が常態化、消失の危機が高まると警告した。

### 国連報告書、沖縄などに注意喚起

日本では沖縄県や鹿児島県、東京・小笠原諸島などにサンゴ礁が分布している。報告書は「日本の周辺海域でも24年に白化が常態化する可能性がある」としている。

報告書は世界各海域のサンゴ礁の状況を調査。このまま化石燃料への依存を続けると、毎年のように深刻な白化が起き、今世紀中には世界の全てのサンゴ礁が白化の影響を受けると予想した。

常態化の時期については、白化のスピードが環境や地理条件によっても異なるため、サンゴ礁が豊かなインドネシア周辺海域で43

国	白化が常態化する年
日本	2024年
ジャマイカ（カリブ海）	26年
オーストラリア北東海域	34年
モルディブ（インド洋）	41年
インドネシア	43年

※国連環境計画の報告書による

物プランクトンが追い出され、栄養分や酸素の供給が受けられずに白くなる現象。1980年代以降に急激に増加、直近では2014～17年に世界規模で観測された。

一方、温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」の目標水準で各国が温室効果ガス排出量を減らした場合は、常態化が起きるのを世界平均で45年まで遅らせることができることとしたが、根本的な解決にはならないとしている。

UNEPは、サンゴ礁が失われれば「海洋生物だけでなく、サンゴ礁の恩恵を受けている世界の10億人以上の人々に壊滅的な結果をもたらす」と強調している。

サンゴの白化はサンゴの体内に共生し光合成により栄養を与えている植物プランクトンの褐虫藻が失われ、サンゴの骨格が白く見える現象。1980年代以降に急激に増加し、近年は世界規模で起きている。海水温の上昇や強い日差し、淡水や土砂の流入などのストレスが原因で起こり、海水温が30度を超える状態が続くと広範囲で起きるとされる。短期間であれば褐虫藻が再び増えてサンゴは生き延びるが、長く続くと死に至る。（ニューヨーク共同）

名前【 \_\_\_\_\_ 】

①今世紀中に世界の海で全てのサンゴ礁が消失する恐れがあるとの報告書をまとめた機関は何ですか。

( \_\_\_\_\_ )

②原因は何だと考えられていますか。

国際社会が \_\_\_\_\_ への依存を続けること

③サンゴの白化（はくか、はっか）現象とはどういう状態ですか。

\_\_\_\_\_

④白化常態化が2034年と予測されているオーストラリア北東海域の世界最大のサンゴ礁は何といますか。

\_\_\_\_\_

⑤温室効果ガス排出量を減らす温暖化対策の国際枠組みを何といますか。

「 \_\_\_\_\_ 」

⑥感想を書きましょう。

\_\_\_\_\_